

4. 竜王町子ども未来会議からの提言

令和5年に子ども家庭庁が設立され、「子どもまんなか社会」の実現に向けて、様々な施策が進められる中、竜王町においては令和5年度に子育て支援に関するニーズ調査を実施し、調査結果や第二期計画の取組状況を踏まえ、令和6年度に竜王町子ども計画の策定に係る審議を進めてきました。

子ども政策には2つの側面があり、

一つ目は、子どもの基本的人権を保障し、子どもが健全に成長できる環境を整えること。

二つ目は、子育て世帯が安心して暮らせる地域づくりを整え、子育て世帯を呼び込み、まちの持続可能性を図ることです。

一つ目の側面について、小規模自治体の規模を活かしながら、細やかな対応ができています。専門職、関連部署も多いため共通のビジョンをもち、教育分野と福祉分野が中心となって、今後も行政が責任をもって連携を高めていただきたい。

二つ目の側面について、待機児童ゼロおよび学童保育の高い受入率については、ソフト・ハード面ともに推進してきたところであり、女性の就職率の高さに反映しています。

ただ、まちの良さを十分にアピールできていないと、町外の人、町内の人両方ともに低い評価となってしまうことを念頭に置いて、子ども政策を推進していただきたい。

子育て支援に関するニーズ調査においては、前回の計画策定時より病児保育のニーズが高まるなど、時代によってニーズに変化がみられます。子どもや子育て世帯の保護者のニーズを捉えながら柔軟に対応し、住民が安心して子育てしやすいまちにつなげていただきたい。

近年、年齢を問わず、孤独・孤立の問題が顕著となっており、子育て世帯、若者も例外ではありません。竜王町は小規模自治体であり、人の移動が比較的少なく、顔の見える関係のつくりやすいまちです。

悩み事を気軽に話すことは思っているより容易ではありません。ただし、伴走してくれる人がいることで、心を開き話しやすくなります。妊娠期から取り組んでいる竜王町の伴走型支援を継続し、引き続き子育て世代が安心して暮らせるまちをめざしていただきたい。

計画は、行政の政策を進めていく上での、PDCA サイクルのP(PLAN)にあたります。しかしながら、本計画は人口構造などまちの将来像に関わる側面もあり、5年、10年後のこのまちのあり方も変わってくるものとして、計画の推進・見直しをしていただきたい。

最後に、基本理念にあるように、様々な人が支えあいともに成長していきながら、このまちで生まれ育った人、このまちで子育てをした人、このまちで働いている人が、“竜王町が好き”と思ってもらえるように、子ども計画を推進していただきたい。

令和7年3月5日

竜王町子ども未来会議 会長 中井 清津子